

# 私の風土記

今村 雄二郎 (株式会社アイヴィス 名誉顧問)

## 第九章

### ベンチャービジネス

私は CSK をやめると、人工知能技術を事業化する目的で昭和 60 年 (1985 年) に小さなベンチャー企業ヒューマンシステムを設立した。この頃、同じ目的で CSK に採用された技術者たちが、一向に事業が進まないことで非常に不満を持っていたので、上司 (CSK 総研所長) にはある程度了解を得て、CSK 総合研究所から 5、6 名の AI 技術者を採用した。初期は LISP、Prolog 等の人工知能言語研究から、徐々にエキスパートシステムの開発を手がけ、電力中央研究所、電力会社等と契約していった。

一番大きな仕事は、旧電総研傘下 (ICOT) の第 5 世代コンピュータ開発であった。これには 5 大コンピュータメーカーが参加しており、小さなベンチャー企業であるヒューマンシステムは、日立中研の下請けとして人工知能言語の開発を担当した。各社とも半ばオリンピック精神的な参加態度をとっていたようで、自社独自の技術はなかなか披露しなかったようである。約 5 年間で、500 億円の子算を費やしたのだが、その成果は非常に疑問であり、現在残っているものがあまりないように思うのは私だけであろうか。

やはり一時 CSK に籍を置いていた窪田やすしは、その後理化学研究所のライフサイエンスセンターを支援して遺伝子やたんぱく質の分子構造の解明研究をしていた。窪田はこの研究開発を事業化したいとの意思が強く、私は平成 5 年 (1993 年) にバイオベンチャー企業 AT I の設立に協力した。

その後理研はこの仕事を中止したが、窪田は現在も理研から移籍した九州工大の皿井教授とともに、たんぱく質分子構造データベースの構築を続けている。現在すでに 2 万数千種類以上の分子構造データが登録されており、毎日世界中から数百件の検索が入っているとのことである。

平成 10 年 (1998 年) 頃にはヒューマンシステムの仕事が先細り、中断凍結する事となった。その後フルブライト同期生の川村茂邦が、あることが原因で大日本インキ化学を辞任することになり、インターネット企業を設立したが、私もこのプロジェクトに 2 年ほど参加した。内容は、米国のバイアソフト社から Rochade というデータウェアハウス/エンタープライズアーキテクチャ技術を導入することであった。RDB と階層構造を重視した、このオブジェクト指向型システムは、現在のエンタープライズシステムの一つの原型のようにも思われ、その後この Rochade は大手の ASG に買収され、益々発展している。